



M-wheel

エムウィールコイン
ホワイトペーパー

2021年05月
Processing Inc.

●エグゼクティブ・サマリー

このプロジェクトは、次の4つのプログラムから構成されるものである。

埋もれている技術（ベンチャー等）への投資と、技術立国としての日本の再生

ここ数年、ベンチャー投資が活況を呈しているが、その投資対象は主にグロースの段階に対するものが多く、シード、アーリーに対する投資は少ないのが実情である。しかし、実用化されれば人類を救う、世界が変わる可能性がある発見であるにも関わらず、資金がないために埋もれている技術があるのも事実である。

そうした技術に対して暗号資産による投資を行うことで、投資先の IPO や M&A のみに頼らない出口戦略が可能となる。つまり、投資先の上場の確率だけを指標にした投資ではなく、「真に社会的価値のある技術であるか否か」を最大の指標にした投資ができる。これは、トークンの価値の向上に伴うコイン価格の上昇も、投資家様へのリターンとして作用するためである。

ブラインドウォークナビゲーションシステム「AI CANE」の開発と普及

当社グループでは、これまで30年近くにわたって最先端エレクトロニクスと高周波無線開発に取り組み、その通過点といえるものが、GPS と AI を有機的に結合した、極秘開発中のブラインドウォークナビゲーションシステム「AI CANE」である。

世界の人口増加とともに高齢者人口も増え、スマートフォンを見る機会も多数時間など目を酷使する環境などもあり、更に視覚障害者数は世界的に急増するとの予測がある。

この杖には視覚障害者だけでなく、杖が必要な高齢の方にとっても、心強いサポートシステムになり得る機能を備えている。

つまり、高齢化が進行しつつある世界において、誰にとっても安全・安心を得る生活の為に大いに役立つツールになる。このような予測に基づき、以下に述べる当社のチアサポ（ライブ配信プラットフォーム）を活用しつつ、AI CANE の世界各国への普及を目指す。

人間本来の心に響く参加型コミュニケーションツールとなるチアサポ（投げ銭型ライブ・プラットフォーム）

これまでの SNS で「資金が必要」という真剣なメッセージを発信したとしても、現実的に資金を供出してくれる反応は、ごく僅かである。しかし、チア（投げ銭）型のライブ配信では、誰でもチア（投げ銭）をするのが当然なので、SNS 等で拡散しながら、配信者が頑張ってる何かを配信するならばチア（投げ銭）が集まることは想像に難くない。

そこで、当社は新しいチャレンジとして、人間の尊厳や本来の心に響く新しい感動装置として、チア（投げ銭）育成型プラットフォームを展開する。チア（投げ銭）の額は小さくとも、表示はポイントとなるがマイクロペイメント（1ポイント=世界最小法定通貨）が可能だからこそ、気軽にトークンを贈ることができ、トークンはエコノミーの中で循環しやすく、その後のプラットフォームの大きな成長につながる。

そして、当社プラットフォームに参加する配信者は、世界の誰もが自由に表現でき、視聴者はチア（投げ銭）を通じて世界の配信者や地域経済圏を発掘し発展させることが十分可能と予測する。

「生きる感動」「社会に役立っている感動」を共有できるマッチング型プラットフォーム

これまであるウェブサイトで、「いいね」をして気持ちを伝えることはできても、その気持ちを「お金」で表すことは困難であった。しかし、マイクロペイメントによれば、これまで報酬を受け取れなかった作家やアーティストなどもトークンを受け取れるようになる。そして、当社のプラットフォームでは、ブロックチェーン上に自分の制作物や過去の取引履歴などを保存することができ、それが個人の KYC（本人確認）になる。また、そういったシステムによって、積極的に活動しようとする参加者が増え、トークンの流通と循環を増大させることにつながる。

個人が自らの価値を高める時代において、当社のプラットフォームを基盤としたトークンエコノミーは、人と人との繋がりを再確認しつつ、生きがいとやりがいを持った人生を見つげるためにも、最良の場になり得るであろうと期待する。

目次

1.プロジェクトの内容

1. 埋もれている技術（ベンチャー等）への投資と、技術立国としての日本の再生
2. ブラインドウォークナビゲーションシステム「AI CANE」の開発と普及
人間の尊厳や本来の心に響くサポート型コミュニケーションツールとなるチアサポ（世界ライブ配信プラットフォーム）投げ銭型ライブ・プラットホーム
3. 「生きる感動」「社会に役立っている感動」を共有できるマッチング型プラットフォーム

2.コインの概要

1. 規格と特長
2. エムウィール Wallet の仕様
3. デビットカードについて

3.トークンの使途配分

4.技術仕様の詳細

1. トークンの単位
2. 使用ブロックチェーン
3. コンセンサスアルゴリズム

5.ICO セールススケジュール

2. プレセール
3. クラウドセール

6.ロードマップ

7.免責事項

8.リスク分析

1. プロジェクトの内容

1-1. 埋もれている技術（ベンチャー等）への投資と、技術立国としての日本の再生

●「未来の核となるテクノロジー」への投資

ここ数年、ベンチャー投資が活況を呈しており、エンジェル投資家やベンチャーキャピタルからのベンチャー企業への投資額が非常に多い状況が続いています。

さらには、内部留保が蓄積し、その一方で新たな事業シナジーを模索する大企業からも、有望な未上場企業への投資額が増加し、投資バブルともいわれる状態にあります。

ところが、その投資対象は主にグロス（シリーズ C）の段階に対するものが多く、シード、アーリーステージに対する投資額と投資先はまだまだ少ないのが実情です。

【出典:entrepedia japan startup finance 2018】

●技術力を持つ者にチャンスを与えるコイン

しかしながら、実用化されれば人類を救う、あるいは世界が変わるほどの素晴らしい発見であるにも関わらず、それを形にするための資金がないために埋もれている技術があるのも事実なのです。

そのような有望な経営者・技術者たちに当社グループより資金を供給して、夢を実現させ、技術を確立させ、人類の未来を変えることが我々の使命と認識しています。

我々は、未来の世界を変えるほどの画期的な技術の「芽」を発掘し、資金投下と経営指導を実施して、技術の実用化を図ります。

また、当社と、大学や高専との連携により、天才的な素質を持つ学生に対する基金を設立し、オナーズ・プログラム（Honors Program）として一貫した専門教育を施し、第一線の研究者としていち早く活躍できる道を提供します。

さらに、大学等において、新たな技術の基礎となる研究がより活発となるように、資金的な支援を実施します。

一方、当社のチアサポ（ライブ配信プラットフォーム）を活用し、お金のなりたちやトークンエコノミーの仕組みを分かりやすく説明することで、多くの方々に「投資」に親しみを持って頂けるようにします。

特に、この流れの中で、若い投資家の育成が図られることを期待しています。

●法定通貨にはない、暗号資産を使った投資の有利性とは

暗号資産（トークン）を使って投資を行うことで、投資先の IPO や M&A のみに頼らない出口戦略（エグジット）が可能となります。

つまり、投資先の上場の確率の高さだけを指標にした投資ではなく、「真に社会的価値のある技術であるか否か」を最大の指標にした投資ができるのです。これは、トークンの価値の向上に伴うコイン価格の上昇も、投資家様へのリターンとして作用するためです。

例えば、投資先においても、エムウィールコインが利用されれば、コインの知名度が向上することに比例して、コインの販売価格（=価値）が上がっていきます。

●なぜ、暗号資産を「テクノロジー」に投資するのか

これまでは紙幣や硬貨に対する最大与信は国家でしたが、近未来には紙幣や硬貨が世界市場から減衰し、最大与信はテクノロジーになると予測します。一方、日本国内には企業の内部留保や個人の家預金など、流通していない資金がたくさんあります。

そこで、トークンエコノミーのメリットを生かして、資金を豊富に持つ個人や会社が、技術力のある個人や会社に対して積極的に投資を行える環境を作る事業を実施します。

●技術開発のためのトークンエコノミーの活用方法

新規な技術開発や商品化のためには、当然ながら開発資金が必要になります。その資金集めに、トークンエコノミーを活用します。その技術者が、支援されるべき価値を有するか否かは、ブロックチェーンに記録された活動歴を確認することで判断できます。

また、資金集めに特化したトークンエコノミーとして、リターンやシェアなども活動の1つとして記録されるので総合的に確認しやすい環境が構築されます。

●暗号資産による投資を推進する社会的メリットとは

なぜ、投資が法定通貨からトークンへと変化するのか、そもそも投資に暗号資産を使う必要があるのかと、疑問に思う人も少なくはないと思います。そこで、法定通貨以外を使う投資がなぜ必要なのかといった追究に行く前に、国家を最大与信とする法定通貨の欠点について説明します。

まず、法定通貨の場合、投資というより貯蓄という形になってしまい、使われないケースが多いことです。日本における金融広報中央委員会の調査（調査期間 2018 年 6 月 15 日～7 月 24 日）によると、二人以上世帯の金融資産保有額は平均値 1,151 万円で、中央値は 450 万円（前回 380 万円）と発表しています。

（全国 8,000 世帯、回収率 44.7%、層化二段無作為抽出法）

しかも、その金融資産保有額の半分は預貯金となっています。つまり預貯金されている状態のものは長期間そこから動かないお金ということになります。預貯金額は前年よりも減っていますが、代わりに生命保険が増えています。金融商品別の構成比は、預貯金 43.9%、有価証券 19.2%、生命保険 22.4%となっています。投資よりも預金の方が圧倒的に多く、預金の割合が多いのは法人も同様です。

確かに、投資は知識がなければなかなか手が出せない部分もあるので、預金を優先させるというのは当たり前の動きではあります。それにしても、企業の内部留保は年々増え続けています。

●トークンは潜在的に使われやすい

法定通貨と比べて暗号通貨に使われるトークンは応用が効きやすく、消費されやすいというメリットがあります。

すなわち、手数料などのコストが低く、様々な価値を保存しそれを個人相手にやり取りでき、ほぼ改ざんされないブロックチェーン技術が担保しているという信憑性など、法定通貨とは全く異なる特徴を有することがその理由です。

また、トークンを利用することで、トークンエコノミー内では金融機関を必要としなくて済みます。海外への少額送金だろうと法定通貨の数千分の1のコストで送金が可能です。ステークホルダーはほぼ手数料を気にすることなく、あるいは投資案件先にトークンを少しだけ投資するにも送金手数料を気にすることなく即送金し、あるいは即報酬を受け取ることが可能です。これを既存のシステムで真似をするのは難しいことでしょう。

「使いやすい」ことこそ、トークンが流通しやすく、エコノミーの成長も早くなるポイントなのです。トークンエコノミーを活用して投資を活発化させるということは、流通していない潜在的な資金を掘り起こし、能力ある個人や会社に、積極的に投資を行える環境を作ることになるのです。

1-2. ブラインドウォークナビゲーションシステム「AI CANE」の開発と普及

● 当社開発の近未来型歩行支援ナビゲーションシステム

上記の「テクノロジー」開発への投資に関連しますが、当社グループでは、これまで30年近くにわたって最先端エレクトロニクスと高周波無線開発に取り組み、たくさんの未来型製品・システムを世に送り出してきた経緯を有しています。

その通過点といえるものが、当社グループの真骨頂技術でもあるGPSとAIとRFIDを有機的に結合した、極秘開発中のブラインドウォークナビゲーションシステム「AI CANE」にあります。

自動運転技術が日々進歩しつつある中、法的整備が構築されれば、自動運転車が一気に世界中に普及していくのは必然的です。そして、当社グループでは、様々なGPSやRFIDシステムを開発し発表し続け、今もなお進化を続けています。

● 世界的な視覚障害者の増加予測

一方、世界の人口が増加するとともに高齢者人口も増えているため、視覚障害者数は世界的に急増するとの予測があります。

英アングリヤ・ラスキン大学の研究チームが188カ国のデータを分析した結果、中程度～重度の視覚障害者は現在でも2億人以上と推測され、2050年までに5億5000万人以上に増加するとの見通しが出されています。

*出典:英医学誌ランセット・グローバル・ヘルス

長年にわたり視覚障害者を誘導してくれたのは盲導犬ですが、これはあまりにも残酷で、犬に与えているストレスを考えれば、もはや動物虐待とも言わざるを得ないレベルです。

そして、当社グループがGPS関連技術の開発に携わる中で、「目の不自由な方がストレスなく自由に行動ができるツールがあれば、どれほど素晴ら社会活動になるか」という思い

がありました。

その実現を果たすために開発したのが、最先端の人工知能を駆使した超高性能ハイテク白杖「AI CANE」なのです。

●AI CANE の機能、システム一覧一部

- ・高性能 GPS+RF ビーコン・カメラシステム、Bluetooth、AI 対応ナビゲーションシステム
- ・バイブレーターによる危険回避システム
- ・24 時間サポートセンター接続（お出かけの時のほか、くらし全般をサポート）
- ・交通アクセスサポート(オプション)
- ・バイタルデータリンク(オプション)
- ・緊急コール(事前登録アクセスへ)
- ・その他

先に述べたとおり、世界的に視覚障害者数の顕著な増加が予測されていることから、このような、超高性能な歩行（のみにとどまらず生活全般にわたる）サポート製品は、近未来においてかなりの需要が多く見込まれるものと考えています。

さらに、視覚障害者だけでなく、杖が必要な高齢者の方にとっても、心強いサポートシステムになり得る機能を備えています。

つまり、高齢化が進行しつつある世界において、誰にとっても安全・安心な生活のために大いに役立つツールになるのです。

このような予測に基づき、以下に述べる当社のチアサポ（世界ライブ配信プラットフォーム）を活用しつつ、AI CANE の世界各国への普及を目指します。また、AI CANE の購入やサポート・コミュニティの利用の際にも、エムウィールコインのみを使用できるようにすることで、歩行した歩数によりチアポイントを付与して、チアサポ内でトークンの流通と循環を増大させることにつながるメリットがあります。

1-3.人間の尊厳とサポートにチャレンジする新しいコミュニケーションツールとなるチアサポ（世界ライブ配信型プラットフォーム）

●これまでの SNS は自己完結が主流

インターネットの普及に伴って、今や、世界中の誰とでもつながりを持つことができる、SNS（Social Networking Service）などのコミュニケーションツールがあります。

そして、それらをどのように利用しているかと問われれば、多くの方々は次のように答えると思います。

- ・日常的なメッセージのやり取り
- ・自分をもっと見てほしい
- ・誰かといつもつながっていたい
- ・フォロワー数をもっと増やしたい
- ・誰かにもっと話したい、聞いてほしい

誰でも、このうちの1つか2つは当てはまるのではないのでしょうか？

では、質問を変えてみます。今、世界の誰かが食べるものがあれば生きられるのにと仮に生死に関わるとした場合、お金あれば助かるのにな、あなたならどう考えますか？

SNS で繋がっている方のうち、どの程度の人数が真剣に反応するのでしょうか。メッセージでの反応は多数あったとしても、現実的に物資や資金まで供出してくれる反応は、きっとごく僅かであろうと思います。

●「頑張ってる誰かを応援する」に基づいた次世代世界ライブ配信システム

しかしながら、最近の投げ銭型のライブ配信では、配信者が最初から投げ銭を期待しており、一方、視聴する側も投げ銭をするのが当然という関係で成り立っているため、単なるSNS でのつながりとは比較にならないほどの善意の「応援資金」が集まることは想像に難しくありません。

このような視点から、当社は新しいチャレンジとして、本当の繋がり、即ち人間尊厳や本来の心に響く「サポート型」のトークンでの応援コミュニケーションツールとなるチアサポ（世界ライブ配信プラットフォーム）を世界展開していきます。

●誰でも気軽に社会活動やサポートが可能に

「身体の不自由な方など、困っている方に声を掛け、積極的にサポートしましょう」という運動が世界的に行われています。

そうはいつても、照れ屋で非常に人見知りする方が多い国では、簡単に声すらかけられないのも事実なのです。

そのような場合でも、当社のチアサポ（世界ライブ配信プラットフォーム）を利用することで頑張ってる方々やサポートが必要な方々との関わり方が容易になります。

特に、通常の顔出し配信のほか、当社の技術よりアバター配信、ラジオモード配信などの切り替えができるようにし、顔を出したくない方でも配信者になれることで、潜在的な配信希望者の発掘も可能となります。

●トークンでの応援によって感動と感謝が得られる仕組みとは

具体的にピックアップして説明しましょう。

視覚障害を持つ子ども（ここはサポートが必要な方と訳す）が、道に迷ってしまったとします。

チアサポ（ライブ配信プラットフォーム）を通じて、この視覚障害者の子を世界で誰かが常に見守っていて、困った時のみオープンさせサポートが利用可能となっています。

そして、チア「頑張ったね資金（＝サポート資金、応援資金）」のように、世界から参加している方がいつでも自由に応援することができる仕組みがあります。

トークンの応援を受理した側は励みとなり、きっと更に頑張る努力するという好循環が生まれることでしょう。

一方、子供や頑張っている老若男女が成長していく過程をサポートしている側は、お金以上の大いなる喜びや感動につながるでしょう。

このように、頑張って努力している方に直接、トークンの応援システムを通じてギフトを渡すことができたり、成長の喜びを参加者と一緒に共有し見守ったり、時にチャットメールなどで伝えたり、顔を出したくない時はアバターで表現したり（初期からアバターでもよし）など、これまでない新しいタイプの経済圏が構築されます。

なお、世界のライブ配信者の発信方法は選択自由であり、視聴側の感じ方もまた自由です。

●トークンエコノミー（ブロックチェーン）で作る投げ銭ライブの成長可能性に関する予測

このように、トークンを中心として設計されているトークンエコノミーは、ユーザー同士が少額トークンによる評価を行うことで、報酬やボーナスを即受け取ることができ、それによって参加ユーザーのモチベーションにもつながります。

投げ銭の額は小さくともマイクロペイメントが可能だからこそ、気軽にトークンを贈ることができ、その結果、トークンはエコノミーの中で循環しやすくその後の成長につながるのです。

トークンでの応援にブロックチェーンを活用するメリットは次のようなものがあります。

- ①ブロックチェーンで記録されたデータの改ざんがほぼ不可能とされ、一度書き込まれたデータの内容は永久的に残り続けるのでデータの真正性がある。
- ②ブロックチェーン上で将来的にチャージの送金プロセスを自動化することで、中間搾取を排除することができるので支援金100%を、応援したい相手に送ることができる。
- ③同サービス上に発生したアクティビティは全てデータで確認可能であり、ブロックチェーン上では不正の痕跡を隠ぺいすることは難しく、検証も可能なため透明性が保たれる。

こうして、当社チアサポ（世界ライブ配信プラットフォーム）に参加する配信者は、世界の誰もが自由に表現し、視聴者は投げ銭を通じて世界の配信者経済圏を発掘し発展させることが可能となると予測します。

1-4. 「生きる感動」「社会に役立っている感動」を共有できるマッチング型プラットフォーム

●マイクロペイメントが可能なトークン

これまであるウェブサイトで、「いいね」をして気持ちを伝えることはできても、その気持ちを「お金」で表すことは困難でした。

例えば、読んで感動する文学作品や癒される写真などに対して、「いいね」は簡単にできます。しかし、それらを投稿した作家やアーティストなどの参加者は、振込手数料の壁によって、少額報酬は受け取りができない状態だったため、これまで事実上報酬を得られませんでした。

そこで、トークンによる少額支払いを可能にする「マイクロペイメント」の出番となるのです。

マイクロペイメントが可能なトークンを利用することで、振込手数料の壁をなくすことが

できます。

そうすることでより多くのユーザーにも当社のチアサポ（ライブ配信プラットフォーム）をより活動的に利用してもらうことができ、なおかつ、トークンを発行している当社側は、トークンを効率良く循環させ流通させることが可能となります。つまり、トークンエコノミーの成長と価値の上昇に必要な循環が生まれやすくなるのです。

●数秒後に報酬を受け取ることが可能

報酬にトークンを利用することで銀行を仲介する必要がなくなります。そうなれば、ステークホルダーは支払いのタイミングを自由に設定することができ、支払いのわずか数秒後に報酬を受け取ることができるようになるのです。

参加者にすばやく報酬が入るメリットは、仕事のモチベーションを向上することにもつながります。従来なら、銀行を仲介するので支払いは月1~2回、あるいは金額等の条件が満たされるまで待たなくてはなりません。しかし、自分の設定でいつでも報酬を受け取ることができるになれば、参加者の活動はより活発になり、参加者がさらに増えることで、トークンをさらに循環させ易くなります。

経済活動が世界で盛んになれば、これは即ち、コインの価値が高くなることにつながりません。

●様々な価値を保存し交換することができる

当社のプラットフォームでは、ブロックチェーン上に自分の制作物や過去の取引履歴などを保存することができ、それが個人のKYC（本人確認）になります。

トークンの基盤となっているブロックチェーン技術はそうした個人の実績を保存し、それをトークンとして相手と取引することが可能となるのです。

トークンには価格があるので、個人のKYCは価値化されます。そうして、トークンエコノミー上で個人が活躍できるようになれば、お金という概念がなくなり、個の実績や制作物、提供できるサービスなどと、購入したい消費者がトークンでトレードするだけになります。このようにお金以外の価値を共有できることが、当社プラットフォームならではの画期的な点です。

では、トークンエコノミー内でお金以外にトレードできる価値には何があるのか、いくつか挙げてみましょう。制作物、レビューやいいね、経験、スキル、知識、時間、プロジェクトなどがありますが、これはほんの一部に過ぎません。

ここに「時間」があるが、時間は有限です。人の時間にお金を支払っているのが企業であり、時給や日給という概念があります。

しかし、トークンエコノミーである当社のプラットフォーム内では、自分で時間の価値を決められることが、既存の経済システムにはない最大の利点です。

参加者同士は、提示されている時間の価格に納得すれば、その場でトークンとトレードできるのです。もちろん時間を提供している人がどれだけの人物でどういったサービスを提供してきたかにもよりますが、それもブロックチェーンに保存されているKYCで確認することができるので、不安なく取引ができるのです。

●なぜ、ブロックチェーンによるプラットフォームなのか

繰り返しになりますが、これらのサービスは既存のシステムでは絶対に作れないとは言えないものの、実現が相当に難しいのです。

おそらく、人が管理するシステムの場合、莫大な費用がかかってくることは明らかです。その費用捻出のためには、広告収入であったり販売手数料であったり運営費用を回収する必要があり、それらが行き詰まる恐れがあるからです。

この点、トークンエコノミーを活用した当社のプラットフォームは、中央管理が存在せずに運営が可能という点で圧倒的に有利です。

トークンエコノミーはマイクロペイメントによって、これまで報酬を受け取れなかった作家やアーティスト、報酬の対象外だったレビュアーなどもトークンを受け取れるようになります。また、そういった報酬システムによって、当社のプラットフォームで積極的に活動しようとする参加者が増え、トークンの流通と循環を増大させることにつながるメリットがあります。

このように、トークンエコノミーという経済圏は、参加者がエコノミーを活用すればするほどトークンは循環し、その結果としてトークンの価値が最大化していく流れになります。

当社のプラットフォーム内で、

- ・人の役に立ちたい方⇔感動を得たい方
- ・フリーランスや副業をしたい方⇔仕事を頼みたい方

が直接結びつくことで、トークンによる密度の濃い小さな「経済圏」が生まれます。

それが可能になると、当社のプラットフォームのコミュニティーは健全で前向きな活動が形成され、不要なコストが発生しにくく、効率の良い仕組みが生まれます。

そして、その後のコミュニティーの一層の成長が期待できるようになるのです。

そして、感動したり、良いと思ったりした時には、いつでも素直に褒めるといった人々の習慣を改めて認識できるシステムでもあります。

個人が自らの価値を高める時代において、当社のプラットフォームを基盤としたトークンエコノミーは、人と人との繋がりを再確認しつつ、生きがいとやりがいを持った人生を見つげるためにも、最良の場になり得るであろうと期待します。

●資金使途

上記のそれぞれの事業について、

- ・開発セグメントの実施の時期については個別表示とし、デフォルト防止向けに総合資金の38%、チアサポ（ライブ配信プラットフォーム）30%、AI CANE10%、先行技術開発22%となります。

- ・投資家へのリターンの時期は基本的にコインの市場価格に反映となりますが、2021年

12月頃予定します。

●コインの概要

エムウィールコインはイーサリアムをベースにカスタマイズされた ERC20 の規格のコインで株式会社プロセッシング（仮）が発行します。

エムウィールのプラットフォームにおいてサービス料金や報酬、広告料などの決済用デジタル通貨としてご利用いただけます。決済、送金、出金が可能となる仕組みを持ち、専用アプリやウォレット、デビットカードによる手段により、スピーディーでかつ安全に決済処理が実行できます。

●エムウィール Wallet の仕様

エムウィールコイン 専用ウォレットについて

エムウィールコイン の専用ウォレットは創設予定の取引所で開発予定です。このウォレット上で保管する エムウィールコイン は、QR 決済やデビットカード決済でご利用いただける機能を備えていきます。

●デビットカードについて

エムウィールコインを利用できるデビットカードの開発を創設予定の取引所で行う予定です。開発が完了した際にはウォレットよりデビットカードにポイントをチャージする事により、いつでもお近くの ATM にて法定通貨として引き出す事が可能となる予定で、クレジットカード機能の様に提携しているお店での支払いも可能となります。

・調達資金の使途

●チアサポ（世界ライブ配信プラットフォーム）の開発と各国別のマーケティング費用と AI CANE の開発並びに先行技術開発。

・トークンの単位

●小数点以下 8 桁

●使用ブロックチェーン

契約ナンバー 0x406e2c47AEc98e3EBc465c59a4689cd1e4F37c9D

<https://etherscan.io/address/0x406e2c47aec98e3ebc465c59a4689cd1e4f37c9d#code>



●トークンの使途配分

名称：エムウィール (M-wheel)

仕様：ERC20

販売価格：200 円/枚

発行枚数：3 億枚

割合（用途）

保管：MyEtherWallet（マイイーサウォレット）でも管理可能。
各取引所のマイウォレット

●ロードマップ

2019 年 12 月プラットフォーム上のアバター配信開始

2020 年 2 月プラットフォーム上の顔出し配信開始

2020 年 5 月以降、チアサポ（世界ライブ配信プラットフォーム）配信開始

2021 年 3 月以降、バーチャルポップアップ世界配信

2021 年 12 月 AI CANE 実証テスト開始、

なお、本ロードマップは、いずれも「予定」にとどまり、確実遂行されることを一切保証するものではありませんので、予めご了承ください。

2021 年 5 月 6 日 BTCNEXT 取引所に上場

●ICO セールススケジュール

* 販売通常価格：1MWC = 1.8USD

期間：2019 年 11 月 5 日～2021 年 5 月 31 日

販売上限数：300,000,000 MWC

●リスク分析

1. トークンの購入、販売および使用に関するリスク

本トークンは有価証券、金融商品として企画、販売されているものではありません。すなわち、購入に係る全ての情報は投資判断を形成することを意図しているものではなく、これらの情報の誤り、不正確さ等によって発生した行為から生じる一切の損失または損害について、そのいずれについても当社はその責任を負うものではありません。

2. トークン市場のリスク

本トークンはエムウィールのプラットフォーム上で利用することが意図されていますが、取り扱う交換所の状況によっては、購入者が保持する本トークンについて非流動性のリスクが発生する可能性があります。

3. 本トークンの不適切な管理にもとづくアクセス喪失リスク

購入者の不適切な管理により、デジタルウォレットに関連付けられたアクセス情報を喪失した場合、本トークンへの適切なアクセスが不能となる可能性があります。

4. システムリスク

本トークンはイーサリウムネットワークを基盤としているため、当該ネットワークの故障や誤動作等により、不測の事態が発生するリスクがあります。また、悪意ある集団等によるサイバー攻撃により、口座認証情報等が漏洩し、顧客が保有するトークンが無断で送付される等の可能性もあります。

5. 課税リスク

本トークンの購入に関しては、課税特性が完全に明確ではないため、関連する税務申告の要件は購入者各自で税務当局に確認する必要があります。

6. 規制措置によるリスク

トークンの発行、販売については、各国・地域で取扱いがまだ明確になっていない状況があり、本トークンについても、将来的に規制当局による対応が変更になり、何らかの規制対象となる可能性があります。

7. 価格変動のリスク

本トークンが今後暗号資産交換所で取引されるようになった場合、価格が大きく変動する可能性があります。

8. ハードフォークによる分岐リスク

トークンがブロックチェーン上で発行されたものである場合、当該ブロックチェーンがハードフォークにより分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。

9. エムウィールプラットフォーム維持のリスク

エムウィールのプラットフォームはこれから開発を進めていく途中であり、今後において大幅な仕様変更が生じる可能性があります。また、開発上予期しなかった要因により、プラットフォームが適切に機能しない、あるいは十分に開発・維持できないことにより、エムウィールのプラットフォームと本トークンのリスクが発生する可能性があります。

10. 解散リスク

暗号資産全体の価値の大きな変動や本トークンの有用性の大幅な減少、あるいは当社のおける事業運営の失敗等により、当社は解散する可能性があります。その場合でも、トークンの購入価格は弁済されないリスクがあります。

11 その他想定外のリスク

本トークンは新規なテクノロジーをベースに企画、設計されたものであり、当初では想定しなかったようなその他のリスクも存在しえる可能性があります。

●免責事項

・本ホワイトペーパーのいかなる部分や表示された事実についても、これを契約や投資の意思決定に関しての根拠にすべきものではありません。また、エムウィールコイントークンの売買に関して、契約の締結若しくは法的義務について拘束されるものではありません。エムウィールコイントークンの売買に関連して、購入者としての販売主体である当社との契約は、契約諸条件を明記したトークン販売契約にのみ準拠するものとします。

・エムウィールコイントークンに対する投資は、投資金全額の損失リスクを含む、非常に高いリスクを伴います。

つきましては、トークン、電磁的記録に基づく資産、及び暗号資産の取得に関する相応の知識のある投資家の方のみ、この機会をご検討ください。当社は、本ホワイトペーパーの正確性・信頼性、または完全性を保証するものではなく、法的責任を一切負いません。

・この文書の記載内容には、当社の分析と予測に基づく将来の業績に関するものがありますが、これら未来に関するすべての記述は、実際の結果が予想と大きく異なる可能性があるリスクと不確実性を有しています。その記述は、分析的な予測のみでなく、当社によって作られた仮定や現時点での市場情報に基づいています。本ホワイトペーパーにある、「信じる」、「予想する」、「意図する」、「可能性がある」、「推定する」、「予測する」、「期待する」といった表現及びこれに限定されない未来に関する記述の一切は、常に流動的かつ不確定な事項に関することです。よって、お客様は、これらの将来の見通しに関する記述を、取引における重大な決定をする際、過信しないようご注意ください。